ワインと農に魅せられ、自然に囲まれた小諸の地で、ブドウづくりワインづくりへ情熱を注ぐ生産者たちがいます。その想いを、自身もワインづくりに取り組む小諸市農ライフアンバサダーの**武藤千春**が、お届けします。

#09

地元、糠地地区の方から通称〝ゲッタ〟と呼ばれる場所で、長年耕作放棄地となっていた畑を開墾し、２０２０年の春からブドウの栽培を始めた上田俊彦さん。ワイン用ブドウの栽培を始めたきっかけは、自らモノをつくり販売する実業をやりたいと思ったから。「会社員時代、仕事の傍らモノづくりがしたいと思っていたんです。ワインはもともと好きで、コミュニケーションツールとしても最強ですよね。ワインづくりを始めてから、ワインを通してより濃く広くさまざまなジャンルの方々との関係を築くことができるようになりましたね。」と上田さんはいいます。自然栽培のビオディナミ農法を取り入れているブドウ畑は、無施肥、不耕起、無化学農薬の栽培をしているため、虫や病気に悩まされることが多く、その分考えることも多いそう。

「〝ゲッタ〟の「地水火風」をありのままに表現したワインをつくりたい。なので作為的に何か手を加えることはしたくありません。その土地の気候風土を大切にして、ブドウの栽培をしていきたいです。」と語る上田さん。オリジナリティ溢れる唯一無二の畑から表現されたナチュラルワインが今後も楽しみです。

続きはこちら

getta wines

ゲッタワインズ getta wines

上田 俊彦さん

小諸市滋野甲（糠地区）